AMCoR
Asahikawa Medical College Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

日本乳癌検診学会誌（2006.01）１５巻３号:412.

検診マンモグラフィの異常を指摘できなかった乳癌症例の検討

平田哲, 菅野普子, 春木秀敏, 黒蕨邦夫

リポジトリ

検診マンモグラフィの異常を指摘できなかった乳癌症例の検討

平田　哲、菅野普子、春木　秀敏、黒蕨邦夫

旭川医科大学病院手術部、北海道対がん協会旭川がん検診センター

【はじめに】マンモグラフィ（MMG）併用検診でのダブルチェックによる読影にもかかわらず、病変を見つけ出せない症例が、数%から 10%あると言われている。今回、この問題点について検討をした.（対象）乳がん検診を受けた平成 16，17 年度の 27731 名中，検診で発見された乳癌症例は 137 例あった。その中の MMG にてカテゴリー1,2 となった 16 症例(11.7%)17 病変を対象とした。MMG にて所見をとらえられた群を A 群、とらえられなかった群を B 群とした.（検討項目）2 群間で年令、進行度、組織型などについて検討した.【結果】①年令：A 群 59 才、B 群 55.8 才と B 群の方が若かった。②進行度では、stage 0:A;9 /B;2, I:A;60/ B;8, IIA:A;22/ B;5, IIB:A;20/ B;0, III～IV: A;9/ B;0 で、進行度不明:A;3 例であった。B 群で進行度の早い例が多い傾向にあった。B 群で非浸潤癌が 3 病変あり，A 群より非浸潤癌の比率は高かったが，組織型による特徴はなかった.③Retrospective に MMG を見た場合，淡い FAD と読影できる症例が 4 例，dense breast で読みきれなかった症例が 2 例あった.
【結論】MMG 併用検診でも 10％前後の MMG で病変を detect できない症例があり，注意が必要である.